

第12回 川崎市多摩川プラン推進会議

議事録

■開催日時：2013年（平成25年）2月25日（月）16：30～

■開催場所：川崎市市役所第3庁舎18階 第1会議室

■出席者（敬称略）

委員長	進士 五十八	東京農業大学 名誉教授
副委員長	北島 信夫	NPO法人多摩川エコミュージアム代表理事
委員	山道 省三	NPO法人多摩川センター代表理事
委員	梅田 孝彦	味の素株式会社
委員	畠山 義彦	富士通株式会社
委員	加藤 純一	市民公募
委員	北島 富美子	市民公募
委員	長谷部 至彦	（代理）国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所占用調整課長

■議事録

1. 開会

（事務局）

- ・ ただいまから、第12回川崎市多摩川プラン推進会議を開催します。本日の司会進行については、多摩川施策推進課今井が行います。
- ・ また、この会議は公開ですので、御了承下さい。
- ・ 出席者は委員8名のうち7名の方が出席しており、本会議は成立しております。
- ・ 京浜河川事務所所長の和泉委員が欠席のため、長谷部課長が代理出席されております。
- ・ 梅田委員は到着が若干遅れると連絡を頂いております。
- ・ 市民委員の三谷さんは御都合により、退任されております。

（資料確認）

2. 緑政部長あいさつ

（事務局の紹介）

- ・ 本日は多摩川プラン事業実施報告と言う事で、2012年度に取り組んできた事業について御報告し、御意見御指導頂きたく、よろしく御願い致します。
- ・ 鈴木部長は公務のため、ここで退席させていただきます。

3. 議事 —川崎市多摩川プランの推進について—

- (1) 平成24年度実施事業報告について
- (2) 意見交換
- (3) その他

(委員長)

- ・ それでは資料の説明をお願いします。

以下、事務局による資料確認、説明

「議事 川崎市多摩川プランの推進について」の意見交換

(委員長)

- ・ それでは御意見どうぞ。

(加藤委員)

- ・ P4 のトピックスのハマダイコンの調査結果は良いと思って見ていたのですが、生物情報収集システムで検索してみて下さい、とあるので今検索してみました。このサイトは見つかるのですが、実際に当該画面に行き着くまでが大変で、一般の人が辿り着けるのかなあ、と思います。小さくても良いので事例をポータル画面に載せて頂けると良いのでは。利用者に対して冷たく感じる。大事なのは、このサイトにアクセスしてもらって、見てもらうと言う事ですが、このページまでは誰も見てくれなさそうだと思う。それから検索ワードだけでなく、URL を載せてほしい。そうしないと類似の名前のサイトが出来た時に、見る方が別のサイトに行ってしまう可能性がある。

(畠山委員)

- ・ たしかに加藤委員が言われるように、この情報を紹介するページが無い。それぞれのテーマの説明のページがあって、誘導する方が良いと思う。いきなり、このページへ飛ばすのはどうかと思う。そう言う訳で、前段のページを作って頂いた方が良い。

(委員長)

- ・ 前段と言うのはどういう事か。

(畠山委員)

- ・ 今は直接このページに飛ぶようになっている。そうではなくて、多摩川プランのページからこのページに来られるようにしたらどうかと言っている。

(委員長)

- ・ 今の説明で分かりましたか。

(事務局)

- ・ 分かりました。

(委員長)

- ・ 私はアナログ派だから良く分からないが。
- ・ この企画自体、花を撮らないと同定出来ないのか。この花を撮ると何々と分かるようになっているのか。

(事務局)

- ・ 撮った写真をメール添付で送る時に、メールを送る人は何の花か分かった上で送って来ると言う事です。

(委員長)

- ・ 撮れば、同定してくれるのかと思ったが。

(事務局)

- ・ いや、そこまではまだです。
- ・ 試行的に、春夏秋、3～4種類の同じ種類の物を撮って来てもらっている。

(委員長)

- ・ 花とか茎とか撮って来てもらえば同定してもらえるのかと思ったが。

(山道委員)

- ・ そもそもこれは何の目的で行なっているのかよく分からない。植物の分布を知らしめてどうするのか。環境学習の一環、と言うのは分かるが、それだったら、対象としている植物の選定基準がおかしいのではないか。これは何を目的にやっているのか。試験的に植物分布の調査をしているのであれば良い。しかし、この成果が何を目的としているのか、良く分からない。目的をはっきりさせないと。この成果の使い方とか表現の仕方が分からない。

(事務局)

- ・ 初めに企業との連携で何か取り組んで行こう、と言う動機があつて、始まった事である。今後は3年間データを蓄積して、天候・工事等により、生態が変わるなどと言う事を、データが収集出来た後に、考察を行う予定である。使い道については教育機関への提供、サイン表示に反映させる、等を考えている。3年間行なって、その後でアカデミックな部分、一般の方へ提示できる部分について考えて行きたい。

(委員長)

- ・ その回答では駄目だ。目的の説明が出来ていない。今の回答を正確に言うと、「富士通と何かやりたい」「そのための実験で遊んでいます」という事です。それなのに、まず3年間やってから、とか言っている。3年やろうと10年やろうと、駄目なデータをいくら集めても駄目である。科学的思考が抜けている。川崎市はアセスメントの条例を日本で最初に作った。そこには科学的行政をやると宣言されている。つまりそういう事である。

(北島委員)

- ・ これは山道委員が以前から言っていた事で、同じ事を繰り返すが、富士通と私の所と川崎市で、目的をどうするかと。ハマダイコンはある時は沢山あるが、急に無くなったりもする。場所も移動したりして、と言う話が出て来て、では調べようと言う事になり、市民も興味を持った。NPOとしても企業と何かしら組んでみたい、と思っていた。市民としては「歩こう、調べよう」と言うことで。3年間が長いかどうかは分からない。また色々な植物を対象とするときりが無い。3つの植物に決めた経緯は色々あるかと思うが、とにかく「歩いて調べよう」と言う事で始めた。何の目的で始めたかが議論になるのは嬉しい話である。今後の事を真剣に考えようと。いい加減と言われればそれまでだが。

(委員長)

- ・ そういう曖昧さで、やるのだと決めているのならかまわない。この先でアカデミックな分析等をやりますから、と言ってしまふのが駄目である。そして、3年後には担当が変わってしまう。これは行政文化だから、私はよく分かっている。そういう事をやらないで、企業との協働を行いたい、とりあえず、出来合いの物があつて取り掛かれるから、と正直に言えば良い。ただ本当の企業は、市民のニーズに基づいて行動する。里山の調査などは全国でこういう調査が必要だ。だからマーケットはある。そういったシステム開発できれば大前進。今までは熟練した調査屋が必要だった。それがこういったシステムで普通の人が出来るようになる。出来るようになると面白くて市民が参加するようになる。そうすれば全国の植生が経年

的にマッピングされる。余計な話をすると、この間、福島に行くと、みんなガイガーカウンターを持って来る。あれはチェルノブイリの事故のせいで、ウクライナ製が多い。そういうとんでもない事が地場産業を振興した。つまり必要が発明になった。これからの全国の生物多様性調査、植生調査などは全国レベルの調査が必要で、その位の調査がこれでやればすごい事である。そのような事が出来る技術開発に進むような方向に繋げてもらうとよい。CSR担当が仲介して技術部門と共に、そのような方向へ進むと良い。

(北島委員)

- ・ GPS 付きの物が良いようで、だんだん性能が良くなって来ている。来年はどうするのか。

(畠山委員)

- ・ 私としては、この調査は学術調査ではないので、市民に楽しく参加してもらって、集まったデータから何か見えてくれば良いと考えている。データが集まれば集まるほど何か見えてくる物もあるし、啓発の意味も出て来る。このデータを見る事によって、知らなかった事を知り得て、興味を持ってもらえると思う。

(委員長)

- ・ ハマダイコンは生態的にどういう意味があるのか。環境の悪い所で増えるのか、良い所で増えるのか。影響を受けるのは水分なのか。土壌なのか。温度なのか。

(北島委員)

- ・ 水分条件です。遷移を追っている訳で、遷移があったと言う事は、なんらかの変化があったと言う事だと推測される。

(委員長)

- ・ 変化があったと言う事は分かるが、それは環境としてどうなのか。外来生物等はすぐ変化がわかるが。

(山道委員)

- ・ ヨシなど色々と生えて来ているので、環境の変化はあると言う事が分かる。

(委員長)

- ・ ノギクの方はどうして入れたのか。ハマダイコンとの対比としてなのか。

(事務局)

- ・ そういった植物を通して、外来生物がはびこっているのですよ、などとか言いたかった。

(委員長)

- ・ ニホンタンポポとかセイヨウタンポポみたいに、典型的な物だと理解し易いが。

(山道委員)

- ・ 交雑が激しいので同定が難しい。とりあえず、なぜやるかは整理した方が良い。市民参加型の植物調査をやりましたと言う事で、このデータは表に出さない方が良いのでは。中途半端である。「何々の仲間」、と言ったあいまいな表現では困るという事である。色々と影響を及ぼすので、この表現はどうかと思う。

(北島委員)

- ・ 生態調査のきちんとしたやり方があると言う。

(委員長)

- ・ これらの植物がなぜ選ばれたのか、よく分からない。環境調査は何か目的があるから行う。その時に、「何かの仲間」と言う表現が良いのか、特定の種にしなければいけないかは、ア

カデミズムに近いと言うのであれば、反論しても良いと思う。コボリさんも市民による調査をもっとやりたい、と言っている。川崎市も生物多様性地域戦略を行っている。そうすると、市民参加で調査するという事が大きな流れになって来る。それは良いが、対象種のワルナスビとかセイバンとはどのような物か。

(北島委員)

- ・ モロコシのような外来種で、セイバンは大陸の地名だったと思う。

(委員長)

- ・ この調査はそういう事を狙っているのなら狙っているで、はっきりさせなければいけない。外来種がどの辺りまで入っているかと言う事、河川敷は当然入って来ると言うけど、外来の植生が中流域までは無いとか。環境学習風に言うと今のままでは繋がらない。少し研究して下さい。山道委員の提案は大問題を提言している。書き方の問題である。

(北島委員)

- ・ 去年あったのに今年は無いとか、国交省が刈った後に調べたとか、大きな問題になった。国交省にいつ刈るのか聞いて調査しないとまずいなと思った。

(委員長)

- ・ それは教養が無さ過ぎる。植物は光合成をする。今日の西芳寺はコケ一面であるが、あれは落ち葉を払うからコケが維持できるのである。草丈は大事である。

(北島委員)

- ・ 調査日を考えないといけないと言いたかった。

(委員長)

- ・ それは逆である。草刈りの程度と昆虫・植物等の関係を調査したら良い。逆に刈る方にもお願いしたら良い。
- ・ ここは企業と一緒に頑張っている事を表現したいらしいから、それは残して、中身は指導してもらって下さい。
- ・ 他には、トピックス3、カラー舗装イメージのブルーは気になったが、これは工事前イメージなのか工事後なのか。

(事務局)

- ・ 工事前です。

(委員長)

- ・ 青は「進め」である。人間は、青はゴーで赤はストップと判断する。ここは「自転車スピード落とせ」という事であろう。それであればブラウン等も考えられるのでは。

(事務局)

- ・ 茶色系だと目立たない。サイクリングコースの横に土の所があるので、一番目立つように考えた。赤・茶色系は年代が経つと色が飛んでしまう。

(委員長)

- ・ 「川の風景」という物を考えていない。多摩川プランでは景観条例も絡めてあったと思うが。

(北島委員)

- ・ 来年度は入るのではないですか。

(委員長)

- ・ どうですか皆さん、これは色が強烈に見えるでしょうか。

(北島富美子委員)

- ・ からし色とかは。

(委員長)

- ・ 明度の高いやつ。そういう物もある。

(事務局)

- ・ 今、東京都もこの色で自転車の走る所を塗装している。

(委員長)

- ・ ベタに塗るのだろう。なんだか川みたいだなと思った。

(北島委員)

- ・ 水溜りのようだなと思った。

(委員長)

- ・ サイクリング道路全体を塗装するのではないのだろう。危険な所だけ塗装するのだろう。危険な所を表現するのに青で良いのか。

(畠山委員)

- ・ 安全な場所に見えますね。

(委員長)

- ・ 他の箇所も塗るのなら考えないと。一回始めると変えられないし。大事な事である。

(山道委員)

- ・ これは注意して走行しなさいのサインであろう。アスファルトを剥がして砂利道にした方が良いのでは。景観的にも変な物が出て来ないし。

(委員長)

- ・ 風景として、全体として見て考えて下さい。役所は部分から考える所がある。サインでも何でも入れすぎておかしくしている。差し引いて見る事が大事である。
- ・ ところで、サクラのオジサンはどうしているか。元気な人が居たが。佐藤アツシさん、という御名前であったか。

(北島委員)

- ・ 御元気です。

(委員長)

- ・ あの方は、どこかで賞などあげないといけないのではないか。

(北島委員)

- ・ 一回受賞したのではないか。

(事務局)

- ・ そうですね、等々力の所で。

(北島委員)

- ・ ずいぶん色々なサクラを植えていた。

(委員長)

- ・ P5 の下の表記で、なぜソメイヨシノだけカタカナなのか。今は全国的にソメイヨシノを退治している。ソメイヨシノはクローンだから困る。地のサクラを使って行くという流れになっていて、埼玉の寄居では250種類植えている。荒川の地元の団体で、グリーングリーン等と言う名称であったが、マップも作っていて素晴らしい。まさに多様性の時代に入っている。

ソメイヨシノ一色などと言う発想は無いと思う。そろそろ考え方を変えたらどうかと思う。
(山道委員)

- ・ ソメイヨシノは注意した方が良い。導入を止めようとすごい勢いで運動している。

(委員長)

- ・ いずれにしても、サクラはみんなに求められているから良いと思う。
- ・ それからサイクリング道路のサインは区の花なのか。これ程種類があるのか。区によっては2種類もあるが。

(事務局)

- ・ 2種類ある区もあります。

(委員長)

- ・ 区の花は誰が決めるのか。

(事務局)

- ・ 市民と行政が一緒になって、最近決めた。

(委員長)

- ・ 高津区はなぜスイセンなのか。

(事務局)

- ・ よく区内に咲いているなどの理由で区民が選びました。

(委員長)

- ・ 幸区のヤマブキはこんなに大きくデザインするのはナンセンスだと思う。川崎区のビオラは園芸種か。川崎はこんな物しか育たないのか。

(山道委員)

- ・ そんな事は無いでしょう。これも注意した方が良く、園芸品種はやめた方が良い。在来の物にした方が良い。

(委員長)

- ・ 個人が温室で育てるのは良いが、路地に植えて行くとなると、あまり園芸品種は望ましくないのではないか。時代の感性を疑う。一般的にエコロジーの考えの中には若干ファシズム的な部分も感じられる。私はエコロジカルな物を100%やろうとは思っていないので、遊びがあって良いと思うが。

(事務局)

- ・ 本当は「字」だけだったのですが、それだけでは、という事で、区の花と核となる木などを入れました。

(委員長)

- ・ これはどこ入れるのか。路面に入れるのか。これは費用が掛かるし、剥げると思う。この「9km」(距離表示)と言うのは本当にこれで行くのか。

(事務局)

- ・ 区境の所に入れる予定です。

(北島委員)

- ・ 中原区のパンジーは経緯を知っている。パンジーを植えようと言う団体があって、区役所の前に並べているうちに、区の花になった。

(委員長)

- ・ いやみんな、そうである。そう言った運動を行なう所が多い。

(北島委員)

- ・ 麻生区もなぜか今はオリーブである。あちこちに植え始めている。いまはオリーブ祭りもやるし、なぜオリーブなのだろうかと思っていた。

(委員長)

- ・ 国道 246 号の所も、ライラックを植えていた。札幌じゃあるまいし。行政も最後に決めるときにはプロの意見も聞いて判断すべきである。新婚旅行で北海道に行ったからとか、きれいだからなどの理由で決めてはいけない。歩いている人の邪魔にもなるし、何回も植え換えている。

(山道委員)

- ・ 区のサインは導入する事に決定しているのでしょうか。

(事務局)

- ・ 導入が決まっています。

(委員長)

- ・ 区の花は決まっているだろうけれども、これは多摩川プランの一部であろう。このような事に予算を取るより、もっと他に使った方が良くはないか。区境を表示する事に意味があるのか。川崎市民は市民として一つで良いのではないのか。区長から言わせると、このサインを付けろと言うのかも知れないが、多摩川で川崎は一つだという事でやって来たので、細かく分ける事は議論した方が良くはないか。そういう物に予算を使うのが良いのか、もっと有効な所に使うのが良いのか。これは既に予算化してあるのか。また、川崎市全体の花は何なのか。

(事務局)

- ・ 川崎市全体だとツツジである。

(委員長)

- ・ 区境だから 2 ヶ所しかないのか。

(事務局)

- ・ 今後は多摩川河川敷に自生しているような花を導入してはどうか。

(委員長)

- ・ 地面に描く様な物では無いが。

(山道委員)

- ・ でもサインの導入は決まってしまうのですね。

(事務局)

- ・ そうです。

(委員長)

- ・ この国交省のポール (P6 中段) に貼らしてもらえばどうか。地面に描くのはどうかと思う。職人が絵を描くのが下手だったらどうするのか。幸区のこれはヤマブキには見えない。アスファルトに描くのであろう。

(事務局)

- ・ シートを熱で貼ります。

(委員長)

- ・ この縦のサインに貼ってもらうのが良い。

(長谷部委員)

- ・ 区境とポールの位置が合わない。

(北島委員)

- ・ 法面にこれを立てるのは問題が無いのですか。

(長谷部委員)

- ・ 問題は無いです。

(委員長)

- ・ これについては事務局で考えて下さい。これは誰が考えたのか。自転車に乗っている人は分かっているのではないか、この辺りから中原区だとか。リピーターも多いのではないか。素人ではないと思う。極端に言えば、地面に線を引いて区名を描けば良いのではないか。花を描くよりよほど分かり易い。僕は風景論の専門家だから。絵になる場所は絵にすれば良いが、道路は基本的に「地」である。道路が自己主張すべきではない。だからやたら絵など描くものではない。走る自転車が「図」であり、背景はおとなしくしていた方が良い。行政マンはみんな「図」にしたがる。
- ・ ニヶ領の写真は灰色だ。みな施設（干潟館も含めて）だからしょうがないのか。P8, これは「かわさきそらとみどりのかがくかん」と読ませるのか。セミナーが何回とか説明されていたが、これは永遠にやるのか。あるいは目標を掲げてやっているのか。参加者は毎回新しくなって、多摩川は大事という意識が高まって行くのか。つまり社会教育全部、十年一日のごとくやっている。全然、輪は広がらないのではないか。

(山道委員)

- ・ セミナーは私が提案・企画しました。何をやろうとしたかと言うと、河川管理者と市民が議論する事だった。最近、私はあまり参加していないが、イベントが多くなっていた。議論することが少なくなっていた。お互い問題を供するなり、解決するなり、議論するなり、そんな場にする、最初はそういう風なテーマでやった方が良いという事だった。

(委員長)

- ・ 多摩川プランを作って何年経ったか。

(事務局)

- ・ 平成 19 年からです。

(委員長)

- ・ 6 年。どこかで今の話のように原点に戻るなどが必要なのではないか。多摩川検定（多摩川もの知り検定？）はまだやっているのだな。

(事務局)

- ・ これは国土交通省が行っている事業に、流域自治体として参加しています。

(委員長)

- ・ 市は一銭も出していないのか。

(事務局)

- ・ 協力はしています。

(北島委員)

- ・ 私は半分ぐらい出席していますが、色々な意見が出ますよね、これがどう反映されたのか、

見えない。例えば、「郵便局下」という湧き水があるんですが、もう少し良い名前を付けたらと言う意見が出ているのですが、その結果が分からない。やりっ放しで残念だと思う。

(委員長)

- ・ 川崎市は流域懇談会のメンバーでもあるのであろう。

(事務局)

- ・ そうです。

(委員長)

- ・ 市の代表も参加するのではないのか。多人数が参加すると、主体的反応をしなくなり、無責任になってしまう。「俺じゃないだろう、俺やらなくて良いだろう」と、になってしまう。

(北島委員)

- ・ お願いですが、多摩川プランを出して、議論してもらおうと言う、そういうセミナーの仕方をやってもらえるよう、工夫した方が良いかなと。

(委員長)

- ・ 多摩川流域セミナーというのは国交省がやっているのであろう。そこに名前を貸して、やった事になっているという事であろう。なにか、人の禰で相撲を取っている感がある。名前だけ見れば、多摩川プランの中に流域セミナーがあって、多摩川プランの元で行なっているように見える。主催はよそだが本当は国交省主催に乗って共催する事であろう。色々な事をやっています、と言うにはずるいやり方のように感じられる。北島委員、何か意見がありますか。

(北島富美子委員)

- ・ 私、住まいは稲田堤なのですが、サクラを伐って道路を造ってすごく便利になったという話をされたのですが、今回サクラを復活させるという事で、色々なサクラを植えるという事になると、それはそれで良いと言う気がします。もう一つは多摩川プランなのですが、川沿いの計画が多くて、川に触れる計画が少ない。夏の暑い時などに、川に入っても良いのですか。

(委員長)

- ・ 安全に入れる場所を造ったらどうかという事か。

(北島富美子委員)

- ・ 川自身の水に触れるとか、見るとか、楽しむとか、もうちょっと・・・水辺の楽校がありませんけれども、もっと普段散歩に行って、ちょっと多摩川で、と言う所は以外と少ないんじゃないかと。やむを得ないと言われるとそれまでなのですが。

(委員長)

- ・ 大河川はそういう所があるかもしれない。比較的アクセスし易い所には階段があったりして。そういう気配りがあったら良い。本当は手で、川の水をすくって飲みたくなるような感じが良い。

(北島富美子委員)

- ・ まあ川崎に居て、それは贅沢でしょうが、触る位までは可能ではないでしょうか。

(北島委員)

- ・ それは水辺の楽校があるでしょう。

(委員長)

- ・ 北島委員は普段、誰もが通りがかった時に、水に触れたいという衝動がある、という事を言っているのです。

(北島委員)

- ・ 本当は駄目なのでしょう。

(事務局)

- ・ 禁止とかでは無いが、危ないので、やめて下さいと言う時もある。自己責任でやるのは良いが。

(委員長)

- ・ 人工的に浅瀬を作って、どうぞ自由に御活用下さい、と言うと、整備責任が問われる。だから出来るだけやりたくない。

(事務局)

- ・ 洪水の度、その浅瀬が流されて維持が出来なかつたりする。

(梅田委員)

- ・ P10 のグラウンドの件なのですが、これはどういう風に使うという事でしょうか。

(事務局)

- ・ 現在、日ハムの球場がありまして、かなり大きな規模です。そのため、サッカーとかラグロス等の要望がありますので、球場の位置を川側に動かして、多目的広場を広げるという計画です。

(梅田委員)

- ・ ぜひ開放して頂いて、利用して頂ければ、と思います。

(委員長)

- ・ 重点エリアの再整備とは、その意味で再整備になっているのですね。旧日ハムの、という書き方はまずいだろうか。「多摩川を整備する」の1, 2, 3の見出しは多摩川プランの当初の言葉か。そうでは無いのであれば旧日ハムの、と言う方がインパクトはある。年報出す時は、去年と同じ名前にした方が役所は安心する。見る方は面白くないが。もう少しインパクトがある風にした方が良い。「重点エリアの再整備」と書いても関心持てない。見出しだけでわかるようにした方が良い。

(畠山委員)

- ・ そもそもこの報告書は誰に対して、何部くらい刷っているのか。どういう風に周知しているのか。

(事務局)

- ・ 今の所、積極的に刷って配ってはいない。HP 等では確認出来るようにはなっている。HP に載せるだけではなくて、多摩川の人が集まる場所にも置いて行きたいと、思っている。

(畠山委員)

- ・ HP からダウンロード出来るイメージか。ここまでやっているのですからそうした方が良いと思う。

(委員長)

- ・ デザイン的には良くなっている。センスが良くなった。

(畠山委員)

- ・ 石に文字が書いてあるというのが、なにか自然を汚しているイメージがある。

(委員長)

- ・ 20 年前はそう言った。今はアート風に行なっている。ストーンペインティング。

(事務局)

- ・ 消える素材ですので環境に対する負荷は少ないかと思えます。

(委員長)

- ・ 毎年報告書のステップアップはしている。ただ分かり易いから色々な意見を言われる。

(北島委員)

- ・ 一番変わったなあと思うのは、今まではハードな部分が多かった。半分はソフトになった。去年とはずいぶん印象が変わったなあ、と思った。

(委員長)

- ・ 長谷部委員どうですか。

(長谷部委員)

- ・ 流域セミナーについて補足を。参加する方がだいぶ固定化しており、高齢化もしているので、若い世代を取り込もうとしている。学生研究会というのを開催して、仲間も呼んでもらっている。物知り検定も小さい子から参加してもらって、興味を持ってもらう所から行なっている。

(委員長)

- ・ それは大事ですね。回数が 40 回と言うとメンバーが固定した伝統行事に見えるから。若い人が入って来るようにした方が良い。若い人が川に対して理解するのは国交省にとって大事な事である。写真もみんな俯いている写真ではなくて。セミナーの写真はディスカッションの物では無い方が良い。「新たな風」と言うのは若い人と言う意味か。タイトルの説明用と言うか夢が絵になっている。ディスカッションの写真ばかりと言うのはどうか。多摩川検定があるのなら、問題集とかあるのか。証書みたいな物もあるのか。

(長谷部委員)

- ・ その場で発行している。

(委員長)

- ・ ソフィスティケートした、それを写真に入れて。あれなら自分も欲しいと思わせるような。

(山道委員)

- ・ 今のセミナーもそうですが、一過性のイベントが多い。目的を持ってイベントの計画を立ててほしい。この前、ナカムラヒデオさんと呼んで、まちづくりの大きな起爆剤になった。だから常にやるということが大事なのかと思う。目的を一行でもいいから書いて、ストーリーにした方が良い。

(委員長)

- ・ 北島委員タイプの方が 4, 5 人居た方が良い。味の素で主催してもらえないだろうか「ミス多摩川」という企画。

(山道委員)

- ・ 渡し場を造ってそこでお金を取って、NPO の資金にしようと言う企画があった。そういうストーリーがあった上でイベントは行った方が良い。

(北島委員)

- ・ 具体的に言うと、渡し場は単なるイベントではなくて、月に 1 度とか実際に渡しをやらうとした。それで栈橋を作って欲しいと御願ひしているのですが、大きな問題として、渡しをやる人が高齢化して、船頭さんがくたびれている。今後どうやって継続するのか、と言った問題がある。

(委員長)

- ・ 矢切の渡しも実際に行なわれているが、あれは誰がやっているのか。

(長谷部委員)

- ・ あれは昔からやっている人である。後継者は居ないと思う。裏に寅さん記念館があって、渡しをやるのに場所は良い。

(北島委員)

- ・ 矢切の渡しと同じく、矢口の渡しの歌を作ってくれと言っているのだが。

(委員長)

- ・ 二子玉川の公園がほぼ完成し、4月にオープンである。あれができると二子の渡しをやってもらって、皆に渡ってもらうと良い。結構本格的な庭園がある。渡しという物は向こう岸に行って楽しみが無いといけない。渡しが普通にあると名所になる。どこのNPOがやっているのか。後継者が居れば良い。指定管理者制度を使えば良いのでは。バーベキューの受託者に渡しの業務もやらせてはどうか。渡しを日祭日だけはやって下さい、とか提案したらどうか。

(北島委員)

- ・ 舟の管理も一度うち（多摩川エコミュージアム？）の管理に移ったのですが、また返した。

(委員長)

- ・ 渡し復活が恒常的になれば、川崎のイメージアップになる。歴史を大切にしている感じがする。ただし、渡った対岸が面白いかどうか重要である。

(山道委員)

- ・ まっすぐじゃなくてもクルーズにすれば良い。

(北島委員)

- ・ 今は、ぐるっ、と回っているだけです。

(委員長)

- ・ それじゃ渡しでは無い。対岸にそういう団体は無いのか。

(北島委員)

- ・ 世田谷のハセガワさんと言う方が居るのですが、「癒しの会」という組織である。

(山道委員)

- ・ 桜ヶ丘病院の院長さん、いや、日体大の学生で良い。トレーニングを兼ねてやらせる位の発想で良い。運営をNPOがやれば良い。バーベキューの話は忘れて頂いて。バーベキューは株式会社か。

(事務局)

- ・ 株式会社である。利益があれば還元して、渡しをやるという話かと思った。

(山道委員)

- ・ 基金を作るくらいのもになっていけば良いのでは。

(委員長)

- ・ 矢切の渡しはビジネスとして成立していると思うが、多摩川は「野菊の墓」は無い。

(北島委員)

- ・ 「矢切の渡し」も向岸は何も無い。帰って来るだけである。今から30年位前に日曜日だけ漁師がやっていた。自転車150円、一人100円。利用客はひっきりなしです。需要はやり方次第で絶対にある。

(委員長)

- ・ 普通のボートより面白い。

(北島委員)

- ・ 反対側まで行くのが大変です。

(北島富美子委員)

- ・ うちの方にもありましたね。二十何年前ですが。

(委員長)

- ・ 他にありますか。原案は良く出来ていますので。見出しをもう少し考えて下さい。渡しも恒常性を考えて下さい。今後の取り組み、と言うのも書いてあるからこれに加えても良い。そういう工夫をして頂ければ良い。企業とのコラボについては、若干、植物その物の位置付けを検討して下さい。
- ・ せっかくここまで続けて来たのだから、皆さんが言われるように、水大賞をもらうのが良い。なにか成果を挙げないと、委員も理事も多摩川推進活動をやっているが、なんだあれば、とは言われたくない。外部評価を受けないといけない。2, 3 軽い賞をもらう、そういう戦略が必要である。
- ・ 明日のセミナーには、この人は参加するのか。

(山道委員)

- ・ 国土交通省の生物多様性のためのセミナー。

(事務局)

- ・ 聞いていないです。

(山道委員)

- ・ 僕はメールを回して無かったかな。

(委員長)

- ・ さっきの植生調査の話もそこなのですよ。そこに重なるようにすれば大きな意味がある。地球サミットで議論したのは地球温暖化と生物多様性である。21世紀の二大課題である。そういう大きな課題を踏まえないといけない。生物多様性がらみの活動については、芽は出ているが、百貨店みたいテーマがいっぱいあり過ぎて全体としての印象が弱くなっている。まとめの、次のステップとして考えて下さい。これまで環境省に任していた生物多様性を、国土交通省もやらないわけには行かないという事で、数年前からやり始めている。川が一番大きな生物多様性の環境です。その生物多様性というのは基本的なテーマです。少しそれを意識していただいて、成果が出るようにして頂ければ良いだろうと思います。

(事務局)

- ・ 多摩川プランの目標年次を平成27年度としている。来年度については多摩川プランの評価と展望について議論して行くと共に、多摩川プランの改定に向けた方向性みたいな物を議論してもらえれば、と考えていますので、よろしくお願ひします。

(委員長)

- ・ 川沿いの景観についての条例を作って行こうという話は進んでいますか。川崎市全体の景観計画は作っていたか。

(事務局)

- ・ まちづくり局で作っています。

(委員長)

- ・そこでの多摩川はどのような位置付けか。東京の景観計画は私が作ったのだけれども、多摩川景観基本軸と言う位置付けが、未だに指定されていない。墨田川とか、玉川上水とか、東京湾岸とか、届出制が機能しているのに、多摩川景観基本軸だけは調整が済んでいない。

(山道委員)

- ・川崎市も7,8年前に多摩川の景観の話があったはずだが、あれはどうなったのだろうか。

(委員長)

- ・多摩川だけでなく、多摩丘陵、街も含めているはずですよ。次の会議のチャンスに情報を出してもらおうのと、事務局としては多摩川プランの中で川沿いの景観の事を強く言っているので、その辺りがどのように扱われているか、確認して、ちゃんと盛り込んで下さい。これは庁内の事なので人の禪で相撲取って良い訳だから。多摩川プランの精神をキチンと景観計画に反映するようにして下さい。多摩川の場合は鉄道が何本も通っている。多摩川の景観は鉄道を通して何百万人もの目に触れている。多摩川は国分寺崖線から丹沢、大山まで全部見える。パノラマです。多摩川はそんな場所です。多摩川は視点場として大切である。東京であれ、神奈川であれ、イメージを左右している。土手にサクラが咲けばすごい事になる。これは演出ですからそういう風に造っていかないと駄目だ。多摩川沿川景観ゾーンが浮き上がるようにプッシュして欲しい。それと生物多様性。それらを柱にしないとイケない。

(事務局)

- ・川崎市としては生物多様性地域戦略を平成25年度に作る事になっていますので、それもあわせて多摩川プランと繋がって行くかと、来年度以降、皆様に御議論頂きたいと考えています。

(山道委員)

- ・いつ頃になるのか。

(事務局)

- ・秋口には環境審議会に答申が出るので、それから半年かけて地域戦略を固めて行こうと考えている。

鈴木部長と委員長との会話（内容は議会答弁について）省略

(委員長)

- ・多摩川プランでも生物多様性でも良いが、鈴木部長の時にこれをやったと言うのがあって良い。多摩川プランをせっかく作って、アベさんも乗ってくれて、全国的に見ても河川でこれだけいろいろな事をやっている所はそうは無い。全国区で先駆けて来たのだから、もっとアピールしても良いし、注目を浴びて良いと思う。いろいろな所を配慮したから総花的に入っている。これからこの部分を見直して、川崎のアイデンティティ、「多摩川の先が川崎だ」と言うのが、クイズ番組に出る位にならないと。川崎はいつも横浜に比べられている。川崎は工業都市のイメージや公害都市のイメージが強くて、それを払拭することが必要だった。公害からの脱却は自然な事だった。多摩丘陵と多摩川を軸にして、緑の川崎を目指すべきだった。それなのに横浜と同じおしゃれな街にしたいと言ってそうしてしまった。駅前は何でもクスノキいっぱい入れたけど、多様性には欠ける。ここは多摩丘陵、多摩川、二ヶ領と

いう3本の自然軸があつて、それが売りだった。それで多摩川プランが出来たのだから、いろいろな計画と合わせて、新生川崎と言うか、新しい川崎をトータルに演出して見せてはどうか。ディテールを彫り込んで行けば、こんなに市民が生き生きとしていると。今までやった事の総集編をやるのは鈴木さんの課題ですね。政策の当初の目的は行政マンにはだんだん見えなくなって来る。なぜならば異動するから。受け継がれて行くのが良いけれどもそうは行かない。時々、よその意見を聞かないと原点が見えなくなる。今川崎は何を成すべきか、文明史的な視点で考えないといけない。個別のテーマを集めて総合化できると良い。それが成功する土俵は出来ていると思う。

(加藤委員)

- ・ 今回の報告書は印刷されるのか。

(事務局)

- ・ カラーコピー程度である。

(加藤委員)

- ・ いつも通りPDFでダウンロードですか。どれくらい市民に関心を持って頂いたのかというのはダウンロード数で自己評価出来る指標になりますので、出来れば公開して頂きたい。今年のダウンロード数が少なくても、来年への対応は可能ですので是非その数字は知りたいです。

(委員長)

- ・ HPに公開する時に見た人から「今後どうしたらよいか」等の、リアクションを求めるようにしないと。受け止める入り口を作ってあげるともっと積極的な意見が出て来ると思う。

(加藤委員)

- ・ 今年良い報告書が出来たという意見があつて、いろいろな人に見てもらいたいと思いました。ここには居ないけれど関わっている企業さんがありますよね。そういう方々に多摩川のためにトップページにリンクを張ってくれと、たとえば川崎市トップの企業のホームページに張ってもらえるよう、メールするなりすると、アクセス数はすごく上がる。リンクだけでなくバナー広告を出してはどうか。そもそも存在を知らないとアクセスしないので、一般団体や市民も関わっているので、お金を掛けない働きかけを、やっても良いのではないか。

(委員長)

- ・ 企業とのパートナーシップの所に組んでくれる企業募集とか。そんな品の無い事はしないのか。これは市民会議として出すのだから、品が悪いと言われるのは我々(委員)。責任は我々に来れば良いのだから。報告書を少し面白くしたりして。初めに、「ごあいさつ」より、今年7年目、とか入っていた方が良い。143万人の市民のみなさんで多摩川で何か、とか、もうちょっと読む人を引き付けるようにして。2012年の報告というのは市民の感覚からすると古い。しかし年次報告とはこんなものである。そんな言葉は使わないで、「こんなにがんばった去年」とかにしてはどうだろうか。もう少し考えて下さい。

(事務局)

- ・ 多摩川プランは7年経って改定の方角に進むと思います。合わせて緑の基本計画についても2017年を予定していますが、そちらについても中間レビューをしなければならない。さらに生物多様性地域戦略も環境審議会で審議されます。この辺で多摩川プランの考え方、緑の基本計画の考え方が大きく変わって来ると思われまふ。そう言った所を視野に入れながら、緑の基本計画、多摩川プラン、両輪で農林水産系を一生懸命にやって都市を育てる、守る、

そういった視点で取り組んでいきたいと思っております。

以上